

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 5年12月28日

協議会名: 松前町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
函館バス株式会社	<p>運行系統名: 松前線 (5系統・地域生活バス「大漁くんバス」)</p> <p>運行区間: 原口漁港前～松前出張所～白神下町</p> <p>運行回数: 1日15回</p> <p>運賃: 全区間一律100円</p>	<p>利用者の利便性を上げるため、地域間幹線系統路線、新幹線や鉄道との乗り継ぎがわかる時刻表をダイヤ改正の有無に関わらず年1回全戸に配布した。</p> <p>また、町広報紙に利用促進の特集記事を掲載しPRした。</p>	<p>A 事業の実施により、高齢者の外出促進や高校生の通学など地域住民の生活の足として利用されており、事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>A 計画の目標として、人口1人当たりの年間利用回数を6.6回(年間乗車人数42,000人)と設定したが、実績では6.7回(42,155人)と目標値を上回った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の5類移行により、外出機会が増え、バス利用回復があったものと思われる(前年比1,233人)。</p> <p>効果としては、住民の利便性向上と経済効果を掲げ、定額低運賃(100円)のバスとして定着し、買い物や通院などに幅広く利用されている。高齢者の外出機会の促進については、バス事業者への聞き取りや年金支給日には利用者が多くなる傾向にあり、人が動くことによる経済効果などで地域活性化につながっている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響による減少傾向からは回復したものの、運転手不足により令和5年10月から減便を余儀なくされ、また、人口減少に伴う利用者数の減少は引き続き懸念される。</p> <p>しかし、高齢化が進むにつれ、路線バスの確保維持の重要性は高まることから、今後も運行経路や運行ダイヤなど利用者のニーズを的確に把握し町民のみならず観光客等の利便性の向上も図り、より利用しやすい環境を整えるとともに、町広報紙などによるPRを行い乗車人数を確保維持していきたい。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 5年12月28日

協議会名:	松前町地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>松前町は、北海道渡島半島の最南端に位置し、海岸線東西39.8kmの国道228号が唯一の幹線道路となっている。</p> <p>人口減少と高齢化が進行し、昭和63年2月にJR松前線が廃止され、地域間は、当町と木古内町を結ぶ路線と平成元年9月から函館間を結ぶ路線の地域間幹線系統路線のバスが運行している。</p> <p>また、町内の路線バスは、主に市街地から西に片道約27kmを民間バスが運行する広域生活交通路線松前線(通称、原口線)として運行され、地域間幹線系統路線と接続されていたが、市街地からの距離があるため、高運賃が弊害となり利用者が減少し、高齢者などの生活弱者にとって利用しにくい環境となっていた。</p> <p>しかし、地域住民にとって安心して暮らせる地域づくりのためには、誰もが安心して利用できる地域公共交通システムの構築が不可欠であるため、高齢者の通院や買い物など外出機会の確保や、高校生の交通手段の確保を図ることを目標に掲げ、また函館への地域間幹線系統への接続も考慮した、地域内フィーダー系統(路線型)「大漁くんバス」の運行を平成26年10月に開始した。</p> <p>「大漁くんバス」は、町内一律100円という定額低運賃を実現し、それまで運行していなかった交通空白地域を運行するなど、地域住民の生活の足となるよう取り組みを進めているとともに、それまで運行していた「温泉バス(目的バス)」の一元化による町経費の負担軽減が図られている。</p>

松前町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

人口減少の進行により地域公共交通である路線バスは、利用者数の減少が進み経営環境が悪化しており、同じ町内でも遠隔地から中心部への運賃が高額となっていることから、高齢者などの生活弱者にとって路線バスが利用しにくい環境となっていた。

地域住民誰もが安心して利用できる地域公共交通システムの構築するため、高齢者の外出機会や高校生の通学手段の確保、地域間幹線系統への接続も考慮した、地域内フィーダー系統（路線型）「大漁くんバス」を定額低運賃（100円）で平成26年10月に運行を開始し、地域住民の生活の足となるよう取り組みを進めているところである。

生活交通確保維持改善計画の目標

「大漁くんバス」人口1人当たりの年間利用回数

（※人口は申請年度の4/1現在とする）

実績 R1年10月～R2年9月	6.5回	(H31年4月人口:7,136人 利用者数46,335人)
R2年10月～R3年9月	6.3回	(R2年4月人口:6,893人 利用者数43,155人)
R3年10月～R4年9月	6.2回	(R3年4月人口:6,624人 利用者数40,922人)
目標 R4年10月～R5年9月	6.6回	(R4年4月人口:6,356人 利用者数42,000人)

令和5年度事業概要

運行系統名:松前線(5系統・地域生活バス「大漁くんバス」)
運行区間:原口漁港前～松前出張所～白神下町
運行回数:1日15回
運賃:全区間一律100円

地域公共交通の現況

- 地域生活バス「大漁くんバス」
(町内・1路線・地域内フィーダー系統)
- 函館バス株式会社(3路線)
 - ・函館松前線(地域間幹線系統)
 - ・木古内松前線(地域間幹線系統)
 - ・小砂子線(上ノ国町地域内フィーダー系統)
- スクールバス(5路線)
- ハイヤー(1社・2台)

協議会開催状況

○令和5年6月15日 第38回協議会

主な協議事項

- ・大漁くんバスのダイヤ改正(R5.10.1)
- ・地域内フィーダー系統維持計画の承認について
- ・松前町地域公共交通計画の策定について

○令和5年9月25日 第39回協議会

主な協議事項

- ・松前町地域公共交通計画について(成案協議)

○令和5年12月15日～12月22日 第40回協議会(書面)

主な協議事項

- ・「大漁くんバス」の令和5補助年度実績報告
- ・地域内フィーダー系統確保維持計画 事業評価の承認について

令和5年度事業の実施状況

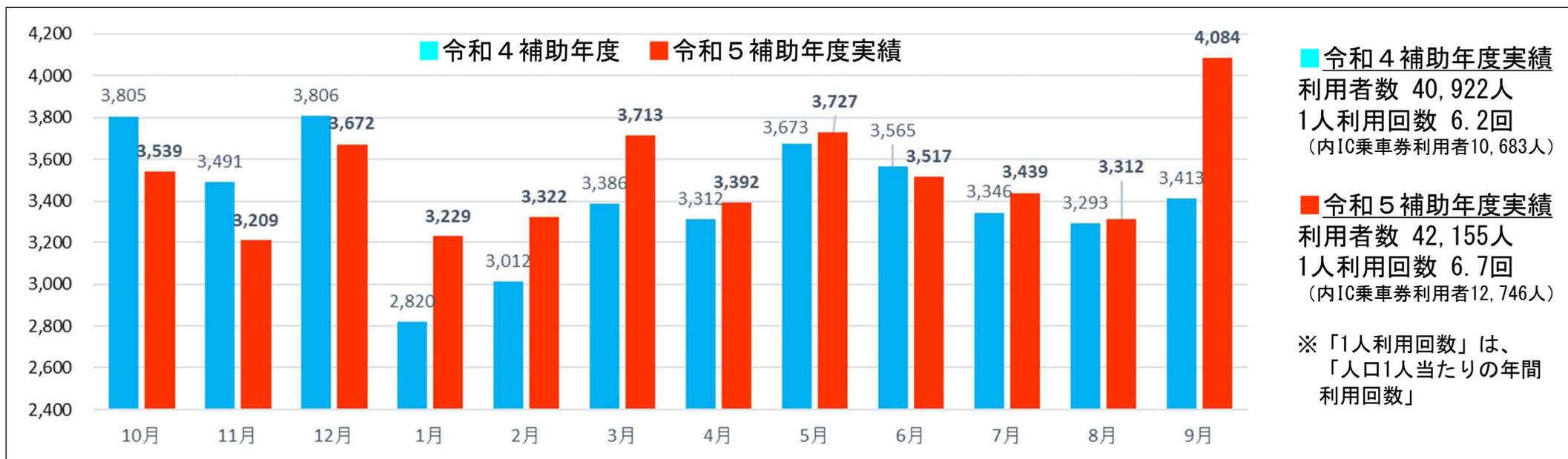
1) プロセス、創意工夫

- ・地域の路線バス空白地域の解消と高齢者の外出機会の確保、既存の町内路線、目的バスの一部を集約し、平成26年10月から定額低運賃（100円）の地域生活バス「大漁くんバス」を運行
- ・利用者からの要望、推移などを踏まえ、路線の延伸や減便など見直しを実施
- ・平成29年6月に「豊岡」及び「町営団地前」停留所にバス待合所を設置し、利用環境を向上
- ・時刻表をダイヤ改正の有無に関わらず年1回（4月）とダイヤ改正時に全戸配布
- ・令和3年4月からIC乗車券を導入し利用者の利便性の向上を図った

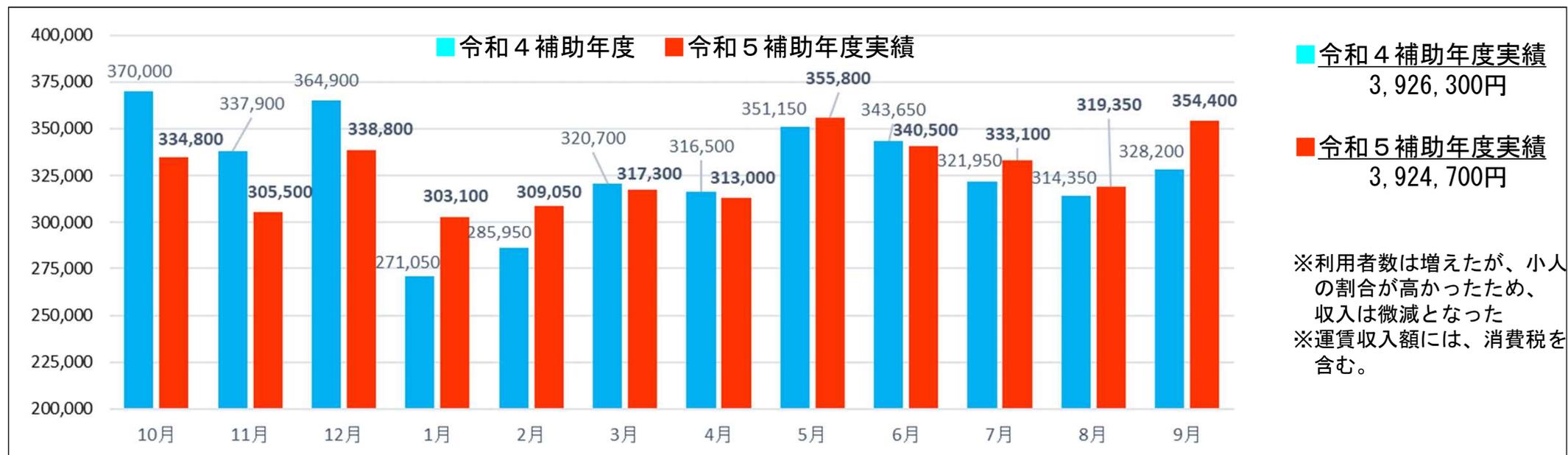
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

事業の実施により、高齢者の外出促進や高校生の通学など地域住民の生活の足として利用されており、事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

計画の目標として、人口1人当たりの年間利用回数を6.6回(年間乗車人数42,000人)と設定したが、実績では6.7回(42,155人)と目標値を上回った。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、外出機会が増え、バス利用回復があったものと思われる(前年比1,233人)。

効果としては、住民の利便性向上と経済効果を掲げ、定額低運賃(100円)のバスとして定着し、買い物や通院などに幅広く利用されている。高齢者の外出機会の促進については、バス事業者への聞き取りや年金支給日には利用者が多くなる傾向にあり、人が動くことによる経済効果などで地域活性化につながっている。

7) 事業の今後の改善点

新型コロナウイルス感染症の影響による減少傾向からは回復したものの、運転手不足により令和5年10月から減便を余儀なくされ、また、人口減少に伴う利用者数の減少は引き続き懸念される。

しかし、高齢化が進むにつれ、路線バスの確保維持の重要性は高まることから、今後も運行経路や運行ダイヤなど利用者のニーズを的確に把握し町民のみならず観光客等の利便性の向上も図り、より利用しやすい環境を整えるとともに、町広報紙などによるPRを行い乗車人数を確保維持していきたい。

8) 地方運輸局等における二次評価結果(案)

運輸局記載欄